

本院では厚生労働大臣の承認を受けた下記の先進医療を実施しています。

令和5年12月1日現在

【先進医療 A】

1 腹腔鏡下膀胱尿道逆流防止術 1回につき 245,000円

(実施科：泌尿器科・副腎内分泌外科)

この手術では、通常、下腹部に3-5mmの孔を3-4カ所開け、腹腔鏡下に膀胱外操作により尿道と膀胱を剥離します。その後、尿管を膀胱筋層内に埋め込むことで逆流防止機構を作成する術式です。膀胱を支配する神経を温存することにより術後の神経因性膀胱も予防できます。膀胱尿管逆流に伴う尿路感染症の予防ないしは、それに伴う腎機能障害の進展の予防に役立つ治療です。開腹手術と比較して傷が小さいことにより患者さんの負担が小さく、入院期間も短く、大きな合併症もみられないため、安全性の高い治療法です。また、膀胱外操作により術後の膀胱刺激症状も軽減することが期待できます。

2 タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養 1回につき 24,230円

(実施科：生殖医療センター)

体外受精や顕微授精後の卵子を、タイムラプス装置搭載型培養器を用いて培養し、発育する受精卵を一定の時間間隔で撮影・観察して、移植胚の選択を行うものです。

培養器に入れたままの状態でも観察できるので受精卵にストレスをあたえることがないこと、受精判定を詳細に検討することができること、よりよい質の受精卵を選択することができること、などにより妊娠率の向上が期待できます。

3 膜構造を用いた生理学的精子選択術

(1) 男性不妊症の場合 1回につき 36,020円

(2) 重症男性不妊症の場合 1回につき 44,660円

(実施科：生殖医療センター)

受精が行われるためには、運動性が良好でDNAが壊れていたりしない健全な精子を選択することが重要であるとされており、従来の遠心分離を行わずに、スパームセパレーターという特殊な膜構造を用いて良好な精子のみを選別・回収するものです。精子に損傷を与えるとされる化学物質の発生を抑え、運動性の高い機能的な精子の抽出を行うことにより妊娠率の向上を期待して行われるものです。

4 子宮内膜刺激術 1回につき 19,940円

(実施科：生殖医療センター)

着床前後において、胚と子宮内膜は双方から信号を出し合っており、胚からの信号は胚培養液に含まれているという報告がなされていることから、胚移植を行う前に胚培養液の上清を子宮腔内に注入することにより、子宮内膜に刺激を与え、着床に適した環境を作り出そうというものです。これにより、妊娠率の向上が期待できます。

5 二段階胚移植術

1回につき 65,820円

(実施科：生殖医療センター)

着床前後において、胚と子宮内膜は双方から信号を出し合っており、胚からの信号によって着床に適した子宮内膜環境を作り出すことが報告されていることから、2回に分けて胚移植を行い、着床に適した環境を作り出し、着床を促すというものです。

複数回の胚移植を行っても妊娠に至らなかった場合で、子宮内膜刺激術を受けたことがある方が対象となります。